

2022 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	近藤 伸介
研究テーマ	ショーペンハウアーと唯識が語る解脱と無
研究概要	ショーペンハウアーの『意志と表象としての世界』と唯識の代表的な論書であるアサンガの『撰大乘論』を主要テキストとし、両著作の中で語られる「解脱」と「無」という概念について比較研究を行い、両思想の共通点と相違点を明らかにする。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>ショーペンハウアーの『意志と表象としての世界 <i>Die Welt als Wille und Vorstellung</i>』とアサンガ（無著、無着）による唯識の代表的な論書『撰大乘論 <i>Mahāyāna-saṃgraha</i>』を主要テキストとし、「解脱」と「無」という概念について両者の思想を比較する研究を行った。東西を代表する唯心論哲学であるショーペンハウアーと唯識はともに、現象世界がすべて表象に過ぎず、苦しみに満ちているという世界観を共有している。また両者はともに、苦しみを克服する手段として解脱を説き、解脱において表象としての現象世界の一切が無に帰すると述べている。これは表象としての世界を生み出す存在基盤、すなわちショーペンハウアーにおける意志と唯識におけるアーラヤ識がともに解脱において消滅することから、表象としての世界の一切も無に帰するのである。一方で、両者には、解脱に至る過程や解脱後に現れる涅槃の在り方などで相違する点も存在する。そうした両者の共通点と相違点を明らかにした研究成果を日本仏教心理学会の学術大会で発表した。</p> <p>また、一般社団法人 STEAM Association が企画した「30 Interviews」という様々な分野の研究者 30 名にインタビューを実施する異分野研究者交流イベントに参加し、自身の研究分野である唯識について語った。そこでは、唯識という仏教哲学が西洋のどんな哲学にも劣らぬ内容と論理体系を備えており、東西の壁を越えて広く知られるべき思想であることを伝えた。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>〔論文等〕</p> <p>単「唯識（ゆいしき）～仏教が生んだ心の哲学～」『30 Interviews 研究者たちの探知をコンテンツへ』 pp.124～131、一般社団法人 STEAM Association（2023 年 2 月 14 日、査読無し）</p> <p>〔発表〕</p> <p>単「ショーペンハウアーと唯識における解脱と無」日本仏教心理学会第 14 回学術大会（2022 年 9 月 24 日、オンラインによる開催）</p> <p>単「唯識（ゆいしき）～仏教が生んだ心の哲学～」30 Interviews あなたの専門で「〇〇な空間づくり」：場の再定義による学ぶ、遊ぶ、働く、暮らす等（2022 年 10 月 16 日、Veil Shibuya）</p>
3. 今後の課題	<p>今年度は、「ショーペンハウアーと唯識が語る解脱と無」という研究テーマで学会発表を行い、また紀要にも投稿したが、その中で様々な意見をいただき、まだまだ研究として不十分な点があることに気づかされた。よって、来年度は、いただいた意見を参考に、文献を再度読み直し、同テーマについてさらに探求を深め、論文として発表できるよう取り組みたい。</p>